

平成23年2月21日

M.O.V.E.ベーシックトレーニング受講者各位

中部大学現代教育学部 児童教育学科 准教授 鈴木 郁子  
MOVE インターナショナル日本支部事務局長 白崎 淳子

### 「M.O.V.E.プログラムの活用」に関するアンケート調査のお願い

拝啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、M.O.V.E.プログラムが日本に紹介されて13年が経過し、その間にM.O.V.E.プログラムのトレーニングを受講された方々の数は、年々教育現場や医療現場に増えて参りました。また、日本におけるM.O.V.E.プログラム発展の成果として、昨年9月に長崎で開催されました第48回日本特殊教育学会では「M.O.V.E.プログラム実践による個別の教育支援計画の効果的な活用」と題した自主シンポジウムが開かれました。シンポジウムでは、実践事例の紹介と個別の教育支援計画を効果的に活用するためのツールの一つとしてのM.O.V.E.プログラムの可能性について討議が行われ、M.O.V.E.プログラムが有効なツールとして活用できるのではないかと提起が教育・医療の各方面からありました。しかしながら、その活用について全国的な実態調査はまだなされておりません。

そこで、今回、中部大学現代教育学部鈴木研究室が中心となり、ベーシックトレーニングを受講された方を対象に、受講後どのようにM.O.V.E.プログラムを感じられたのか、現在はM.O.V.E.プログラムといかなる関わりをお持ちであるのか、また、実践として子どもたちの指導・支援にどのように活かしておられるのか等々について、アンケート調査を行い、その結果を今後の指導の充実に活かしていきたいと考えました。

教育現場におきましては、とりわけ特別支援教育に転換したなかで示された「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」の作成にあたり、児童生徒の実態把握と関係機関の連携がこれまで以上に重要度を増しています。加えて、今後の教員大量退職時代を迎えるにあたって、肢体不自由教育の経験の少ない教員が、適切に児童生徒の実態把握を行い、自立活動の時間の指導を始めとして「体の動きの指導」が効果的に展開できるかといった課題があります。IEPをより充実させるために開発されたM.O.V.E.プログラムの活用について調査することが、これらの課題解決の一助となればと考えています。

つきましては、同封のアンケートにお答えいただきたくお願い申し上げます。このアンケートの実施に当たり、個人名・等、個々の回答に関するプライバシーは固く遵

守いたします。この研究により、当分野に関する教育内容の充実・発展に資することを祈念しております。どうぞ、ご協力をよろしく願いいたします。

まことに勝手ながら、4月20日(水)までに、ご返送いただければ幸いです。

アンケートに関してご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせをお願いいたします。

返送先、お問い合わせ先

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200	中部大学現代教育学部児童教育学科
鈴木郁子	TEL : 0568-51-9631 e-mail: <a href="mailto:ikukoszk@isc.chubu.ac.jp">ikukoszk@isc.chubu.ac.jp</a>

ご多用の折、大変お手数をおかけいたしますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具